

江戸クイズ 其巻

江戸時代以前から、日本では宗教的な理由や徳川綱吉の『生類憐みの令』の政策などの理由により、獣食が禁忌とされていました。しかしそれはあくまでも建て前。肉を提供する店は隠語を使って法の眼をかくぐり、客を呼び込んでいました。(魚肉を食するのは許されました。)



解答・解説

- ① ぼたん…E 猪 「牡丹に唐獅子」という成句に由来。盛り付けが牡丹の花びらに似ているのは後付けの演出とされている。猪肉は別名「山くじら」とも称される。
(くじらは魚肉とみなされ、合法だった。)
- ② さくら…I 馬 馬肉の色が桜の花びらを連想させるため。「けとぼし」の異名もある。
- ③ もみじ…D 鹿 花札(十月札)で鹿と紅葉と一緒に描かれているから。
因みに無視することを「シカト」というが、これも鹿がそっぽをむいている花札の図案が語源となっている。
- ④ いちょう…G 鴨 鴨の足がいちょうの葉に似ているから。中国では、アヒルの足を「鴨脚」(ヤーチャオ)といい、これが転訛したものが「イチョウ」である。
- ⑤ かしわ…B にわとり にわたりの羽ばたきが神社で行う「かしわ手」を打つ姿に似ているから、
にわたりの色が柏の葉の色に似ていたから、など諸説ある。

その他 【すっぽん】 すっぽんの丸い形から「マル」

【ふぐ】 下手すると当たって死ぬことから「てっぽう」

【うさぎ】 「うさぎに月」から由来して「月夜^{げつよ}」

などがあります。特に、鶏やうさぎは江戸時代は禁忌とされていませんでしたが、仏教徒は例外でした。ウサギ類を「1羽、2羽…」と数えますが、これは獣肉食を禁じられていた仏教徒が密かにウサギ肉を食べるためにウサギを鳥として扱っていたことに由来しています。また、牛・豚が一般的に食されるようになったのは明治以降のことでした。

